

第2専攻 金融・IR翻訳のマーケット

日本国内上場企業株式の外国人保有比率は30%を超えています。こうした中で2015年6月に公表された「コーポレートガバナンスコード」には、「上場会社は、自社の株主における機関投資家や海外投資家の比率等も踏まえ、議決権の電子行使を可能とするための環境作り（議決権電子行使プラットフォームの利用等）や招集通知の英訳を進めるべきである。（コーポレートガバナンスコード補充原則1-2④より）」との1文があり、本格的に英文での企業情報開示が求められる時代に入りました。

IR (Investor Relations) とは、企業が株主や投資家に対し、投資判断に必要な情報を適時、公平、継続して提供して行く活動全般を示します。企業はIR活動を通じて投資家等と意見交換することで、お互いの理解を深め、信頼関係を構築し、資本市場での正当な評価を得ることができます。また、逆に外部からの厳しい評価を受けることで、経営の質を高めることができます（出典:日本IR協議会「IRの定義」より）。

IR翻訳として扱われる文書の種類にはどのようなものがあるのでしょうか。株主総会招集通知、アニュアルレポート、事業報告書、株主通信、有価証券報告書、財務諸表、決算短信、プレスリリース、CSRレポート、統合報告書が中心となります。この他にも、調査目的で上場会社の未翻訳資料や非上場企業の決算資料の翻訳、デューディリジェンス用の資料の翻訳があります。

従来は、上場企業を中心とした一般企業が主要な顧客でした。特に、外国人株主の比率が高い企業のIR資料の英文化が活発に行われていました。しかし、上述した「コーポレートガバナンスコード」により、今後は企業・団体・官公庁・学校法人等、すべての法人で英文での情報開示が求められるようになります。ですから、IR翻訳には潜在的ニーズがあり、もっとも裾野の広い翻訳ジャンルへとなるでしょう。

では、これらのIR文書の翻訳はどのようなプロセスを経て行われるのでしょうか。ソースクライアントは企業や団体のIR室、財務部、広報部等となります。そこから、IR専門会社、印刷会社、法律事務所や監査法人にIR文書の作成が依頼されます。翻訳会社には主に文書を翻訳する作業が依頼されます。実際の翻訳作業は翻訳会社内の翻訳者または在宅翻訳者が行います。

IR文書は全般として、現在進行形の内容が多く、知識や情報のアップデートが非常に重要となってきます。IR文書の種類は多いものの、類似する内容があるため、類似表現や同一

表現の繰り返しが多く、それらを統一する必要があります。また、多年度にまたがる事業計画についての報告では、過年度で使用した表現との統一も求められます。さらに、勘定科目、部署名、製品名等の固有名詞の統一も求められます。このように、縦（年度ごと）と横（各文書）の両方での一貫性、統一性が求められる IR 翻訳では、文書管理や用語管理が非常に重要となります。質の高い文章・訳語データベースの作成が求められています。

IR 翻訳の仕事を獲得するには

ここまで読んできて、なんだか難しそうとか、ハードルが高いと感じた方もいらっしゃるかもしれませんが、それでも、IR 翻訳を仕事にしたいと思う方もいらっしゃると思いますので、次のステップとして仕事の獲得についてご説明します。

IR 翻訳に限らず、翻訳会社が実施しているトライアル試験に合格して翻訳会社と契約し、仕事を得ることができます。

また、2015 年春に発行された「翻訳の世界基準 ISO17100:2015(Requirements for Translation Services)」は翻訳者の条件として

- a) 翻訳の学位（大卒資格）
 - b) 翻訳以外の学位（大卒資格）+ 翻訳の実務経験 2 年
 - c) 翻訳の実務経験 5 年
- の 3 つを上げています。

翻訳会社は上記を満たした翻訳者を求めています。経験部分の基準はあいまいなので、もうしばらく翻訳業会全体の動向を見守る必要がありますが、a) を満たすことができる本校のような教育機関は残念ながら現在のところ多くありません。

さらに、IR 翻訳においては、リーガル・金融など関連分野の知識・翻訳力を有する方や IR 関連の実務経験のある方は有利でしょう。米国公認会計士などの財務関連の資格を持つ方も有利になります。

また、ISO17100 の検討の過程で翻訳資格という要件が、上記 a), b), c) に続いて検討された様に、翻訳の資格は経験以上に明確なので、一般社団法人 日本翻訳協会が実施している「IR・金融翻訳能力検定試験」などの資格も有利になるでしょう。

IR 翻訳の将来性

最後に、IR 翻訳の将来性についてご説明します。冒頭で記したとおり、「コーポレートガバナンスコード」で株主総会招集通知の英訳を進めるべきとされたことにより、IR 翻訳の需要はより高まるとみられます。他の分野と比べて、日英翻訳の需要が圧倒的に多いので、英日と日英の両方に対応できるようになることが望ましいです。さらに、法務・金融など周辺領域の知識と翻訳技術をマスターできれば、大きな強みとなるでしょう。

IR 翻訳市場は人手不足と言われています。求人情報をみると、「英語力のあるかたなら未経験でも OK」というものもあるくらいです。この記事をお読みの皆様には、ぜひ積極的に IR 翻訳市場に参入していただきたいと思います。